



11 番
郷孝枝議員
(日本共産党)

老後の安心・介護の安心のための 地域包括ケアシステム構築を

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療・介護・生活支援・介護予防の地域支援事業の充実が求められています。

①介護報酬削減が市内事業所に及ぼす影響はどうか。赤字経営では事業継続は困難です。地域の介護財産でもある介護事業所を下支えするよう指定・委託・補助の活用で支援ができないか。

◆福祉部長

今年度の介護報酬制度改定により、市内の多くの事業所では、サービスの種類を問わず、大きな影響を受けています。事業所では加算制度の活用、介護保険適用外のサービスを独自に展開されることや、定数・営業日などを調整することで収益を確保しようと努力されています。介護保険事業については、収益事業として各事業者の運営努力による部分もありますので、事業への補助という点では難しい点があります。なお、市が委託事業・指定管理事業としてお願いしていると

ころは、十分に運営状況を把握しながら対応していく必要があります。

②介護の人手不足解消のために、県の制度と連携した初任者研修助成を下呂市でも実施を

◆福祉部長

県においてその制度内容が検討されているので、内容をみながら具体的に検討していきたいと思えます。

③認知症施策推進のための医療・介護の連携は

◆福祉部長

現在、下呂市医師会の事業として進められている、「下呂市在宅医療と介護のガイドブック」の作成に協力し、今年度中に各戸に配布予定です。

④地域包括支援センターを下呂地域にも増設する必要があるのではないか。

◆福祉部長

職員の増加が見込めないため、新たに設置するのは非常に困難です。

⑤地域ケア会議の推進と、介護事業者間の協力共同体制の構築で、受け皿の整備を急ぐ必要があるのでは

◆福祉部長

地域包括支援センターが中心となって圏域ごとに開催し、個別ケースの検討と支援方法を協議しながら、地域の課題の掘り起しを行っていきます。



13 番
中島達也議員

今後の行政組織について

平成28年度から新たな定員適正化計画が施行され、現在、平成31年度の行政組織が示されています。議会事務局(監査課含む)、観光課など新たな組織編成の考え方について伺います。

◆総務部長

9月に下呂市組織再編計画を策定したところです。この計画で部については、統合対象の20部を16部に再編するとともに、課は48課を44課にします。こうした組織の見直しで、現在の定員適正化計画の見直しでは、平成27年度の職員数615人が平成31年度には600人に減少する予定です。議会事務局については、その必要性から現状の職員を維持することとしております。議会事務局の体制は議会とも協議して進めていきたいと考えています。また、観光商工部については現在、観光課、商工課、観光施設としておりますが、観光課と観光施設の統合を予定しています。

再編の時期ですが、一部の部署

を除き、庁舎整備のスケジュールに合わせて平成29年度に行いたいと考えています。

地方創生戦略と財政運営について

下呂版創生総合戦略について随時報告を受けていますが、最終的な概要を伺いたい。また今後財政的に何が問題になっていくのか示してください。

◆経営管理部長

基本方針として、人口そのものを増やすだけでなく、地域の自発的・自治的な活動を推進し、地域の力となる有能な人材の育成や呼び込みなど、「質を高める」取り組みに重点を置くものとし、また、その基で4つの基本目標を掲げました。1つ目の基本目標は「しごとをつくる」とし、働く場を確保し、就業を促進します。2つ目は「下呂市に呼び込む」とし、魅力を伝え、新しいひとの流れをつくりたい。3つ目は「若い世代の未来を応援する」とし、結婚・出産・子育ての「希望」をかなえます。4つ目は「まちを育て、まちをつなぐ」とし、安心して暮らせる「まち」にします。

財政的に長期の計画で施策を行っていくとすると、基となる財源の確保が重要になってきます。下呂市にとってこれが大きな課題になってくると思っています。



16 番

二村 勝己 議員

市内各道路の整備について

①国道41号保井戸屏風岩付近の改良計画について

◆建設部長

落石崩壊などの危険箇所を回避するためにバイパス整備が計画され、平成17年度に事業採択されましたが、10年経過した現在も一部地権者の承諾が得られず、工事が未着手となっています。

②国道41号小川地内右折レーンの進捗について

◆建設部長

平成27年度に調査設計・用地買収など、平成28年度には、建物補償業務・本線拡幅工事を施行し、順調に進めば平成29年には工事が完成し、高山方面に向かう車両は右折車線ができたことにより、安全な通行が可能となります。

③国道257号馬瀬未改良地区の改良計画について

◆建設部長

川上第Ⅱトンネル、数河・黒石間の早期着工に向けて要望しています。

④県道下山名丸線、下呂小坂線門和佐瀬戸線の改良計画について

◆建設部長

緊急輸送道路における県の計画では、平成30年度までに2車線が確保できない区間においては、500mに1箇所待避所を設置することとしています。それらの計画に基づき、一般県道下山名丸線では名丸地内において、主要地方道下呂小坂線では四美地内において、待避所を計画されています。

⑤市道森8号線合掌村から交流会館までの改良について

◆建設部長

当該路線は、緊急搬送や観光面においても重要な道路であると認識していますので、今後事業を検討して行きます。

沿道修景事業について

各道路の沿道修景事業の進捗状況と、今後の計画について

◆建設部長

現在、国道257号、主要地方道下呂白川線・下呂小坂線・宮萩原線において事業の予算要求をしています。

◆馬瀬振興事務所長

平成24年度から平成26年度までの3ヶ年は市道惣島線沿いを継続して行い、今年度は名丸地内の市道中央橋線沿いを実施、さらに惣島地区の市道旧道線沿い0.45haを予定しています。



14 番

中野 憲太郎 議員

第2次総合計画で人口減少対策にどう取り組んでいくのか

総合計画策定から1年が経過した。人口減少対策・行財政改革の推進・地域づくりの3つの重点プロジェクトの中で、地域づくりのしくみに関する取り組み状況は①進捗と全体のスケジュールは

◆経営管理部長

第2次総合計画は市の最上位に位置づけられる計画です。現在の計画の下で、まち・ひと・しごと創生にかかる総合戦略も合わせて策定をしています。第2次総合計画の中には3つの大きなプロジェクトがあります。プロジェクトの中で、地方創生と大きくからみがあるものは、人口減少対策・地域のしくみづくりプロジェクトです。こちらについては、総合戦略の中で、第2次総合計画と整合性を持ちながら進めていくこととするものです。

②計画づくりのワークショップは

◆経営管理部長

総合計画と総合戦略が非常に密接な関係にある中で、地方創生に

関連して子育て世代の女性を対象にモニターを募集し昨日までに4回の会議を開催し、女性の視点での意見を伺っています。元気な若者をつなぐということで、50歳以下の方々20名ほどを募集し、未来を創る語り場アンダーフィフティーGジャックの愛称で、若者会議を開催していきたい。このような形でワークショップを開催しながら新たな政策とし、また地域の中で取り組んでいたけるようなものを、自ら見つけていただくことにもつながっていききたいと思います。

③地元職員の地域活動参加は

◆経営管理部長

職員の地域活動参加については、市長からも常に地元の行事や活動には極力参加するよう指示されているところです。

職員が地域活動に参加し、地域の生の声を聞くことにより、行政として本来に取り組むべきものはなんなのか、従来の事務事業を漫然と行うのではなく、気づきや見直すきっかけにも繋がるのではないかと考えています。

